



議会全員協議会(協議議題)

- ◆ 8月15日開催
- ・ 職員の旅費(宿泊料)に関する条例の見直し
- ・ 第7期遠別町総合計画進捗状況
- ・ 農山漁村振興交付金の交付決定
- ・ 遠別町介護従事者向け住宅条例の制定(取下げ)
- ・ 特別養護老人ホーム友愛苑運営補助金
- ・ 物価高騰対応重点支援金(調整給付分)
- ◆ 8月21日開催
- ・ 特別養護老人ホーム友愛苑運営補助金(再協議)

第4回定例会

9月8日から9月12日の5日間を会期として開催し、報告4件、功労表彰の被表彰者推薦、規約の変更3件、条例の一部改正4件、補正予算4件、各会計歳入歳出決算認定5件、公営企業会計決算認定2件、発議1件の合計24件の議案が提案され、原案のとおり可決しました。一

般質問は白幡議員が行い、会期を2日残し閉会しました。

行政報告

- ◆ 特別養護老人ホーム友愛苑の事業承継
- ◆ 地域おこし協力隊の採用
- ◆ 令和7年度普通交付税の決定
- ◆ 第45回全日本バレーボール小学生大会全国大会出場結果並びに中学校体育大会全道大会及び全国大会の出場結果
- ◆ 小西出隼翔さんの2025男子U16バレーボールアジア選手権大会出場

報告

- ◆ 専決処分の承認(令和7年度遠別町一般会計補正予算(第4号))
- ◆ 令和6年度健全化判断比率の報告
- ◆ 令和6年度資金不足比率の報告
- ◆ 教育委員会の活動状況に関する点検・評価報告書(令和6年度対象)

審議事項

- ◆ 功労表彰の被表彰者推薦
- ◆ 北海道町村議会議員公務災害

- ◆ 補償等組合規約の変更
- ◆ 北海道市町村職員退職手当組合規約の変更
- ◆ 北海道市町村総合事務組合規約の変更

主な補正予算

- ◆ 遠別町職員の育児休業等に関する条例の一部改正
- ◆ 遠別町職員の勤務時間及び休暇等に関する条例の一部改正
- ◆ 遠別町職員の旅費に関する条例の一部改正
- ◆ 遠別町新規就農者経営発展支援に関する条例の一部改正

【一般会計】

- ◆ 省エネ家電購入支援事業補助金 100万円増
- ◆ 物価高騰対応重点支援金(調整給付分) 690万5千円増
- ◆ 簡易水道事業会計補助金(水道料金軽減) 300万円増
- ◆ 特別養護老人ホーム友愛苑運営補助金 5,632万1千円新規
- ◆ 地域産品開発業務委託料 499万4千円新規

発議

- ◆ 議員派遣について

議会全員協議会(協議議題)

- ◆ 9月8日開催
- ・ 特急はぼろ号の一部区間の減便
- ◆ 10月8日開催
- ・ ほたて養殖資材導入に係る補助金

第5回臨時会

10月29日の1日を会期として開催し、報告1件、補正予算1件の議案が提案され、原案のとおり可決し閉会しました。

報告

- ◆ 令和6年度資金不足比率の修正

主な補正予算

- 【一般会計】
- ◆ ホタテ養殖漁業生産力強化等支援事業補助金
3,676万4千円新規
- ◆ 遠別中学校建設工事
1億700万円増

令和6年度 各会計決算審査特別委員会 9月9日

【一般会計(歳出)】

― 農林水産費 ―

ヒグマ対策について

問 遠別猟友会の会員数は？また、ヒグマ対策について今後どのように進めていくのか。

答 会員数は11名。ヒグマ対応としては有害駆除として8名の方が許可を得て活動しているところであり、昨日現在で15頭を駆除している。今後は若い方、農業者の方が狩猟免許を取っていたらと活動が広がると考えるので、勧誘を含めて行政や猟友会で検討していきたい。

― 商工費 ―

とんがりかんの利用について

問 厨房の稼働日数は？また、テレワーク利用人数が99人と低迷しているが、大人だけの人数か、子どもたちの夏休み利用も入っているのか。今後の方向性は。

答 厨房の利用頻度は年2回、オープンの時と10月のイベント時となっている。テレワーク利用者が延べ99人のうち中学生の利用が延べ21人となっている。厨房の利用については利用・販売をしたいという相談もあり、テレワーク施設も含め利活用をさらに検討したい。

― 歳出全般 ―

旭温泉のあり方について

問 指定管理を含め、今後の旭温泉の考えを伺う。

答 決算などを考慮しながら次の5年の管理料に関しては考えていく。また、町の観光全体を考え、旭温泉を売り込むことを考えていかなければならない。宿泊棟も50年が経過しており、将来的なあり方を総合計画の中で打ち出していく必要があるかと考えている。



議会を傍聴してみませんか

詳しくは
テレビ電話でご確認ください。

次の定例会は **12月12日頃** の開催予定です。

議会を議場で傍聴された方には、
行政サービスポイント 200 ポイントが付与されます。

【お問い合わせ】
議会事務局
電話 7-2147 (直通)

メール gikai@town.embetsu.hokkaido.jp



町政を問う

第 4 回 定例会「一般質問」



的ではなく長期にわたる場合、保護者の負担軽減を両立させるために、どのような対応を検討しているのか、今後の具体策は。

答 (教育長) 1点目の「物価高騰の影響について」

問 全国的に物価高騰が進む中、本町においても対策を実施していると認識している。こうした状況下で児童、生徒の健全な成長に必要な不可欠な学校給食に与える影響は看過できないものと考えられる。本町においては、給食費の半額を公費負担する独自の事業を継続しているが、令和5年度以降一人当たりの給食費に変更がなく状況を認識したところ、今のところ影響がないとの見解であった。1点目、「影響はない」という認識の根拠について。2点目、学校給食の主要な食材について、過去1〜2年間で取引先の仕入れ価格はどのように変動したのか。3点目、今後の町の対応について、現在の物価高騰が一時

は、本年一学期の予算執行状況と今後の見通しに鑑みて、年度末まで安定した学校給食の運営ができる状況であると受け止めている。2点目の「食材の動向について」は、うるち米の値上がりが大きく、牛乳も値上がりしたが、これまで週当たりの米飯給食やパン、麺の給食回数は変更せず、おかずである主菜、副菜と汁物の献立の工夫などにより対応している。また、肉、魚、野菜については、昨年度と比較して目立った変動は見られていない。3点目の「今後の対応について」は、食料品等の物価高騰が継続した場合においても、基本的には半額補助を継続していく方針であることを町長

と共有しているところである。さらに、「生きた教材」となる地場産物の活用を促進し、地域の自然、文化、産業等に関する理解や生産者の方々の努力、食に関する感謝の気持ちなどを育む食育を推進していきたい。

再質問

問 献立の工夫は、食材の置き換えや調理法の変更によつて子供たちの栄養や満足度を損なわないように慎重に行う必要があると思うが、教育長の見解を求める。次に、今後生徒数の減少に伴う給食センターのコスト構造の変化を見据えて、さらに物価高騰が継続した場合に、現在の半額補助からさらに補助率を引き上げ、より手厚い保護者向けの支援策を実施するよう望むが町長の見解は。また、地場産物の活用促進にどのような目標を持たれているのか、教育長の答弁を求める。

答 (教育長) 小学校では毎学期に児童と保護者から給食に関するアンケートを取っており、7割の子供たちに「美味しい」という回答を貰っている。美味しさ、質と量についても当然確保して、学校給食の改善充実をますます進めていきたい。地場産物の活用については、道の目標5割に対し遠別町は55%と目標はクリアしており、これを一つの指標としながら、地元生産者や事業者の皆さんと連携・協力をいただき、より一層促進していきたい。

答 (町長) 現在の負担を増やさずに現状の栄養素、カロリーを保つまま、満足した給食を提供することが第一なので、まずはこれに注力するべきだと考えている。補助率の引き上げについては国の動向も注視するべきと考え、まずは現状の半額補助を継続していきたい。

総務産業常任委員会 町内所管事務調査

9月12日に総務産業常任委員会町内所管事務調査が行われ、午前中には現地調査活動として、郷土資料館・郷土資料館収蔵庫ほか4箇所を調査し、午後からは議会審議の参考に資するため、担当者への事情聴取が行われた。

現地での調査活動



郷土資料館建物の現状

昭和12年建築の旧丸松小学校校舎を改修して開設した郷土資料館は、外壁等が痛み、布基礎がないためアライグマが出入りし、営業する現状となっている。郷土資料館・収蔵庫共に仮に大規模修繕を行うにしても、建築基準法上の建築確認手続きが通らない可能性がある。令和6年度の利用者は41人。展示資料数は約700点。



中学校建設工事の進捗状況

鉄筋コンクリート造2階建、延床面積3,785.45㎡。12月中旬頃には躯体工事が完了する予定。その後は屋上防水工事、外部サッシ取付、内装工事、外断熱工事、電気設備取付、機械設備取付や仕上げ工事に取り掛かる予定で、令和8年7月までの工期で建設工事が進んでいる。



道の駅周辺の状況

令和7年はドッグラン（試行：10m×20m）を7月9日から供用開始。今年度4月から7月までの道の駅利用状況は72,277人（前年度対比-4,917人）、とんがりかん6,899人（同+46人）、キャンプ場176人（同+17人）。コインランドリー利用回数合計は1,260回となっている。

事情聴取

友愛苑における運営移行後の経営状況について

社会福祉法人ふくろう会が事業承継し、令和7年8月1日から運営を開始している。8月末現在の入所者数は43名。うち3名が入院中。町外からの入所者は2名。これまで行ってきた事業はそのまま行い、デイサービスもこれまでどおり行うと聞いている。介護報酬についてはサービス提供加算（Ⅱ）から、サービス提供加算（Ⅰ）ということで、単位数で2単位上げることができた。夜勤職員の体制加算は22単位のマイナスとなっている。施設関係は屋上防水の修繕が必要な状況で、積算ではおおむね3,000万円の費用となる。現在入所希望者は20名ほどいるが、要介護3以上で介助の必要が近々に迫っている方は多くないと聞いている。今後は入所判定委員会に福祉課職員もオブザーバーとして参加する。

説明に対し委員会からは、修繕については国や道の補助金を充てるよう、早期に対応するよう努めること、また、協定の中で赤字補填をすることとなっているので、事業者には月別の収支状況の報告を町へ提出することを求め聴取を終了した。

議会広報研修会

8月20日、札幌市で開催された「議会広報研修会」に、議会報発行特別委員会から2名の委員が参加しました。

議会広報サポーター芳野政明氏を講師に迎え「議会の『見える化』&住民との『信頼築く』議会広報の基本と編集」をテーマに講演が行われました。

講演では、議会報の課題や改善の方向性、メディアとしての役割、戦略的な広報のあり方などについて学び、今後の誌面づくりに活かせる多くのヒントを得ました。



議会広報研修

留萌管内町村議会議員研修会

8月29日、留萌管内町村議会議員研修会（主催者…管内町村議会議長会 木村健一会長（初山別村議会議長））がマナピィ・21で開催され、管内町村議会議員74名が参加し、当町からは議員7名と事務局職員2名が出席しました。

研修会では「地方行財政の課題」と題して内閣官房（内閣官房副長官補室）内閣審議官 新田一郎氏の講演が行なわれ、人口減少下における広域連携や、振興局が各種取り組みのサポートを行うことが望ましいといったことが紹介されました。



留萌管内町村議会議員研修会

東京遠別会総会

10月11日、東京遠別会（高橋二三次会長）の第36回総会が東京都で開催され、設立40周年を迎える節目の年となりました。

当議会からは小森議長、白幡副議長、山下議員の3名が出席し、町からは國部町長ほか職員2名が出席しました。

総会には、北海道東京事務所行政課長や北海道ふるさと会連合会副会長など、多くの来賓の方々が出席されていました。会場では故郷・遠別町の懐かしい話に花が咲き、終始和やかな雰囲気にも包まれていました。



東京遠別会

総務産業常任委員会 道外所管事務調査

10月19日から22日にかけて、総務産業常任委員会（山本仁美委員長）による道外所管事務調査が行われ、大分県竹田市を訪問しました。議会議員全員と遠別町教育委員会教育長が出席し、竹田市における「地域おこし協力隊の活用について」及び「久住高原農業高等学校に対する支援策について」のテーマでお話を伺いました。調査の内容については次号で詳しく紹介します。



大分県立くじゅうアグリ創生塾にて

議会の主な動き (令和7年8月～令和7年10月)

8月	
1日	第1回総務産業常任委員会
5日	留萌 GX・みなとセミナー(留萌市)
15日	第7回議会全員協議会
19日	戦没者・功労者追悼式
19～20日	北海道町村議会広報研修会(札幌市)
21日	第8回議会全員協議会
25日	第3回議会運営委員会
30日	留萌駐屯地及び稚内地域事務所との親睦パークゴルフ大会

9月	
5日	天塩高等学校存続期成会要望会(留萌市)
8、10日	第4回遠別町議会(定例会)
8日	第9回議会全員協議会
9日	令和6年度遠別町各会計決算審査特別委員会
11日	遠別町敬老会
12日	総務産業常任委員会町内所管事務(現地調査及び事情聴取)

10月	
3日	第7回議会報発行特別委員会
8日	第10回議会全員協議会
9日	北海道縦貫自動車道 士別市～稚内市間北・北海道高速交通フォーラム(中川町)
10～12日	東京遠別会総会(東京都)
19～22日	総務産業常任委員会道外所管事務調査(大分県竹田市)
29日	第5回遠別町議会(臨時会) 第8回議会報発行特別委員会


議員出席状況

令和7年8月1日～令和7年10月31日

区分 議員名	定例会・臨時会						常任委員会等				特別委員会			合計			出席率 (%) ⑥/⑤					
	開催 日 数 ①	出席内容			出席 日 数 計 ②	欠席内容			総務 産業 3	議 会 運 営 1	全 員 協 議 会 4	議 会 報 発 行 2	開 催 日 数 計 ①+ ③ ⑤	出 席 日 数 計 ②+ ④ ⑥	欠 席 日 数 計							
		全 日 出 席	遅 刻	早 退		慶 弔	病 欠	そ の 他								出席内容			欠席内容			
																全 日 出 席		遅 刻	早 退	出 席 計 ④	慶 弔	病 欠
小森 嘉孝	2	2			2				11	11			11			13	13	0	100.0%			
橋本 初昭	2	2			2				11	10			10		1	13	12	0	92.3%			
大石 幸夫	2	2			2				11	10			10		1	13	12	0	92.3%			
白井 金治	2	2			2				13	13			13			15	15	0	100.0%			
山本 仁美	2	2			2				11	11			11			13	13	0	100.0%			
山下 悟	2	2			2				13	13			13			15	15	0	100.0%			
白幡 広喜	2	2			2				13	13			13			15	15	0	100.0%			

あしがき (白井委員)

今夏、「令和のコメ騒動」とも称されたように、スーパー等の売り場からコメが消えた。コメの作付面積、収穫量とも道内でも例外ではなかった。もともと「米騒動」といえば歴史の授業で習った1918年(大正7年)の出来事。久しぶりに学生時代に使った教科書を引っ張りだしてしてみた。輸出用米用の増加や農業の担い手が都会へ流出したことによる生産量減のほか、投機目的でコメの買い占めが相次いだことなどが米価高騰につながり暴動に発展した。今回は主に猛暑によるコメの収穫量の減少や訪日外国人客の増加による外食産業での需要の高まりに加え、不足感が強まったことから買い占めがあったことも要因とされる。大正、平成、令和と続く「騒動」で共通するのは「買い占め」だと思われる。米価格上昇で消費者の米離れを招けば、流通業者と生産者は共倒れになる。農家は、一獲千金ではなく「自信を持って次世代に継がせられる」農業政策を望んでいます。



発行：遠別町議会
編集：議会報発行特別委員会
委員長 山下 悟
副委員長 白井 金治
委員 白幡 広喜